**H３１　研究構想図**

**児童の実態**

・英語を話すことに自信がもてない児童がいる

・英語の表現は知っており、その授業時間内では使えるが、それ以外の場面で使いながらコミュニケーションを取ることが苦手である。

**改訂中央区教育振興基本計画**

**‐教育課程特例校**

**国際教育パイロット校として‐**

・「生きる力」を中心とした質の高い

教育の展開

・「学校力」の強化と教育環境の充実

による魅力ある学校づくり

・「社会全体」で支える子どもの健全

な育成

**常盤小学校の教育目標**

・上品で豊かな心と健康な身体をつくる

・勤労を尊び喜んで自分のつとめを果たす

・互いに尊重し合い協力して平和な社会を

きずく

**研究主題**

自分の思いを英語で発信できる児童の育成

－学習したことを生かす「試す」場の工夫－

**研究仮説**

「習う・慣れる・試す」の学習課程の基準を明確にすることで、既習表現の定着を目指し、行事を含めた様々な場面で自分の考えや思いを伝えたいという関わりが増えることで、児童は英語が伝わることに自信をもち、積極的に英語で発信するであろう。

系統的・・・カリキュラム作成、CAN-DOリスト作成

継続的・・・英語を話す機会を有効的に使う

習う　・・・語彙・表現を増やす　→そのための手だて（練習の回数、効果的な導入）

慣れる・・・語彙・表現の定着　　→場の設定（Quick Time、 Heart to Heartなど）

定着をはかるための手だて

試す　・・・学んだ表現を使う・生かす（積極的に使おうとする）

→機会の設定（イベント、行事）

**研究内容・研究の重点**

●各単元での評価基準の明確化

●指導の流れの確立（習う・慣れる・試す）のうち、『試す』の

充実・意識的設定を図る。（ゴール地点を確実にする）

●必然性のある言語活動の場の設定（他教科との関連、異学年交流）

●クイックタイムと英語の時間を活用した基礎の定着

●評価・Can-do リストの見直し

**目指す児童像＝英語で発信できた姿**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | **【低学年分科会】** | **【中学年分科会】** | **【高学年分科会】** |
| **目指す児童像** | 学習した表現を使って、進んで自分の言いたいことを伝えたり、相手に尋ねたり答えたりできる子 | 学習した表現を使って、自信をもって、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりできる子 | 学習した表現を、日常生活で活用できる子 |
| **日常的な****英語の場** | ・朝の会のやり取りの工夫・ふわふわ言葉の充実 | ・JVTAの更なる連携・交流の場として異学年に伝える場の設定 | ・Heart to Heart + αの設定・たてわり活動の工夫・ふわふわ言葉の充実 |